



SSKW

新

だより ぶし

特集

マグニチュード 9.0



私たちは大震災で沢山のものを失った
しかし、そこから学んだことが私たちを強くする



社会福祉法人

3月11日 第2けやき作業所 被災

ぶしの会

NO.348



のぞみ福祉作業所から南三陸町の海の方を見ると、緑が生い茂っている。2～3か月前は津波で押し流された瓦礫で大地が隠れていた……。この裏山には志津川高校がある。

「もう、想定外という言葉は使いたくない。
『ああ、この程度で済んだ』という
くらいの準備をしなければならぬ」と、
畠山所長（のぞみ福祉作業所）が講話の
中で話されたという言葉が印象に残った。

「業所」を訪れた。場所はかなりの高台にあり、実際に災害時の避難場所にも指定されていたという。そんな安全だと思われていた場所でも、一階の天井まであと50cmというほどの高さまで津波が押し寄せた。のぞみ福祉作業所の建物内はほとんどが津波で浸水し、残念ながら亡くなられた利用者さんもおられた。

支援センターでは、はじめは安否確認に奔走していた。しかし、津波によってなにもかもが流され、どこに誰がいるのかさえもわからない。各自治体が把握している障害者手帳をもとにした地域で暮らす障がい者の名簿の開示も、個人情報保護法の壁により阻まれてしまう（同法には、「生命や財産の危機に瀕した場合、それを公開していい。」という条文があるにもかかわらず）。そのため、各事業所から名簿をいただき、しらみつぶしに訪問調査を行ったそう。しかしながら、福祉サービスを利用されていない在宅障がい者の確認が全くとれない現実もあった。震災直後は、このような安否確認や必要な物資を届けることを行い続け、これらの活動を通して、個別のニーズを掘り下げていくことができるようになった。

支援を行っていく中で、様々な生活問題が見えてくるが、「なんのためにやっているんだろう・どうして困っているんだろう・私たちがやっていることに意味があるんだろうか」といった意見も出てくる。そのような中でも、これからの復興の力になるのは地元の方であり、あくまでも支援センターは黒子役に徹し、支援をすることで現場に混乱を残すようなことがあってはならない。被災地の

個人情報保護法が壁となり、 障がい者は置き去りにされた

ニーズを掘り下げ、それに応えていくことが大切なのだということを確認しあってきたという。

「災害は、平等に襲う。」

しかし被害は、不平等に襲う

東部支援センターの菅井事務局長はこのように言う。実際、障がい者は健常者の倍の死亡率と言われている。このような状況は、天災ではなく、人災といえる。せめて、被害を平等にしたい、障がい者を特別扱いするわけではなく、健常者と同じ生活を送れるようにすることを目標に、活動を行っている。そして、活動していく中で障がい者を取り巻く様々な問題に直面した。

事例として、

① 避難所に逃れた統合失調症の方が、七十歳すぎの母親の首を絞めてしまい、大事には至らなかったものの避難所を出ざるを得ず、被災して危険な状態の自宅に戻って生活していた。

↓福祉避難所の存在の周知が必要である

② 全盲の視覚障がいの方に、日常的に利用していた点字図書館から安否確認の連絡がきたが、その方の住む町内会からは何のアクションもなく、町内の一員として認められていないと感じた。

↓地域、町内会との連携の必要性

また、「なぜ障がい者だけが」という避難生活をされている被災者からの声で、支援を

東日本大震災3.11

～半年後のみやぎを訪ねる～

迷いながらも敢行した現地取材。復興をめざして私たちは何をするのかを考えた。

被災障がい者を支援する人たち

被災地支援センターの活動

九月三日夜、東日本大震災から約半年の宮城県登米市に車を走らせた。今回、取材に協力してくださったのは、JDF（日本障害フォーラム）がこのたびの震災で大きな被害を受けた被災障がい者を支援するために設置した被災地支援センターのひとつ、宮城県の北部支援センター（宮城県登米市）と東部支援センター（宮城県涌谷町）である。半年経った今でも日々変化するニーズに、全国各地から集まった支援員の方が奮闘されている中、わずか一日のみの取材を受け入れていただいた。

三月一日にマグニチュード9.0の地震が発生し、津波や火災、また福島では原発事故を引き起こすなど東北地方を中心に未曾有の被害をもたらした東日本大震災。あれから半年の月日が経過した。当時の被害の様子については、テレビ、ラジオ、新聞、あるいはインターネットなどのメディアを通して、皆さんもよくご存知のことと思う。内地にあり、海なし県である栃木県に住む私たちでさえ、津波で家や車や船、多くの人々が次々とのみこまれていく映像はショッキングであった。先人たちの教えを守り、万全の備えとして築いた防潮堤を打ち破った自然災害の恐ろ

しさを痛感された方も多いのではないだろうか。

被災地では、未だに行方分からない方、あるいは避難所や生まれ育ったふるさとを離れての生活を余儀なくされている方も多い。あれからあつという間に時が経ってしまったと感じる方もいるだろうし、まだ時間が止まったまま、という方もいると思う。大震災から半年が経過し、被災地で困っていることは何か、見えてきた課題は何なのかを学ぶために、このことが現地の皆様に大きな負担をかけることとなると思いながらも、今しかないの思いもあり、取材を敢行した。

「安全」というのは、 想定内のことであったのに

九月四日、震災で大きな被害を受けた被災障がい者を支援するために組織された、JDFの「みやぎ北部支援センター」の活動（23～24クル）の一部に同行させていただいた。私たちが取材に訪れた土・日曜日は、支援センターの支援員が七～一〇日間の活動を終え入れ替わる週末で、夜遅くまで支援の引継ぎで多くの支援員が明日への準備を行っていた。全国から集まってくる支援員の方は、就職一年目の方もいれば、ベテランの方まで幅広く、そうした方が、土地勘もない地で十日間の間、ここでしかない経験をするのである。

私たちは宮城県南三陸町の「のぞみ福祉作

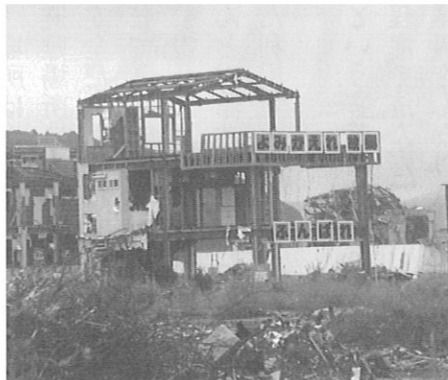
ストップせざるを得なくなった状況も発生し、そのような中で瞬時に判断をしていかなければいけない難しさもあるという。

ほんとうの復興はこれからだ！ 支援の手をとめないで！！

最後に、東部支援センターの菅井事務局長より。

「栃木県は、被害があつた東北の隣接県であることを常に意識してほしい。支援活動にも資金が必要という経済的な問題があり、いまだに先立つ金銭がないと何も解決しないという状況である。地元においてできること、東北の物品購入や、募金への引き続いての積極的な参加を求めたい」とのこと。

確かに栃木県も震度六強の揺れがあり、亡くなった方もいる。また、私たちの法人でも作業所の維持ができなくなったところもある。しかし、東北地方の現状を見れば、やはり私たち自身の復興と、東北地方の復興を支援する活動を重ねて行うことが絶対に必要なのだと身にしみた。



取材を終えて

北部支援センターを出てから、南三陸町へ向かう道中、明らかに不自然な形に曲がっているガードレールを目にした。徐々に目に見える形で状況が分かってきた。津波で流された何かが当たり、凹んでいた案内標識。「ボランティア募集」と大きな張り紙を出していた民家。映像では何度も目にしている瓦礫の山。のぞみ福祉作業所からは、海が見えた。以前は建物が立ち並び、見えなかったはずなのに。

現地に行った方からは、言葉が出てこなかったというのを聞いていたが、「半年経つてもいまだこの状況か」としか言いようがなかった。それだけ深刻な状況が続いているのだ。

それでも南三陸町の地元商店街と町が協力しての催事「復興市」の開催など、復興に向けて歩み出そうという動きも見えてきており、一日も早い再生を願わずにはいられない。この日は、何をするでもなく、ただ本紙の取材に來ただけという自分を非常に場違いに感じ、その場にいること自体が恥ずかしくもなった。次に来るときは、必ずお役に立ちたい。

北部支援センターの引継ぎの際に、任務を終えた事務局次長の方が話されていた。「貴重な経験という言葉は、被災された方に

「これから、私たちができること」
マグニチュード9・0・・・

一生に一度経験するかもしれない今回の大震災。失われた人命の数は一万五千人以上、震災から半年以上たつたいまでも、行方不明者は四千人以上にものぼっている。栃木県内でも、亡くなられた方がいた。法人内作業所も被害にあった。残念ながら私たちに地震や津波を止めることはできない。しかし、誰もが例外なく危機からいち早く逃れ、また、迫りくる脅威の進行を遅らせることはできる。こうした防災・減災の取り組みをこれから行っていくことが、いま私たちに課されている。将来に私たちが残すことのできる財産にもなるのだと思う。栃木県を含め、被災地では復興に向けて日々たえまない活動や支援が継続して行われている。そのような中で、こぶしの会として、支援者として、一個人として、いまやらなければいけないこととはなんなのだろう。

こぶしの会としての課題

こぶしの会として、こういった苦境に陥ったときのためにどういったことができるのだろうか。こぶしの会は、宇都宮市、真岡市、芳賀町、上三川町に日中活動の拠点を構えている。実際には、二市二町以上の圏域の障がいのある方の支援を行っている。また、上三川町を除く同地にグループホーム・ケアホームを運営しており、さらに各種の相談支援センター事業も実施している。こぶしの会が実施する様々なサービスを、多くの地域の、様々な障がい者が利用されている。

「第2けやき作業所（芳賀町稲毛田）の被災」

被害の大きかった芳賀町では、第2けやき作業所が運営継続が困難となり、この九月には本格的に宇都宮市内に移転することとなった。利用者・職員ともに町の避難所の利用を余儀なくされた方もおられた。ケアホームでは、一時的に他のホームの利用

者と一緒に暮らすこととなった。すべてが、同時に、突然の事態に機敏に反応する力が求められた。

法人が、それぞれの事業所が、職員が、県外の障がいある方々の支援も含めて、障がい者の命と安全と、日常の暮らしを取り戻す拠点として、何ができるのだろうか。

積み重ねてきた支援の歩みが、困難な事態を切り開いた

第一に、日常的な支援の重要性がある。今回のJDFの支援センターの取材の中で、これまでの利用者支援の個別支援計画書、記録が大きな役割をもったことを聞かされた。日常の支援が遮断されたときに、それを引き継ぐ役割をしたのが、ていねいな支援の記録であり、外部からの支援者は、それを頼りに、必要な支援を重ねたというのだ。重い話だったが、自分にも衝撃だった。

「たりなかった非常時の備え」

第二に、法人及び各事業所の危機管理運営体制を緊急に整えることだ。情報がなかなか届かない中で、震災直後にすぐに取り組んだ安否確認の活動、ケアホームの食料確保、緊急避難所への職員配置等の成果を更に確実な取り組みにするために、法人内の連携等をより緊密にし、もれない体制をつくりあげること、必要物資の普段からの備え、特にケアホームでの準備の必要性は身に沁みた。学んだことを風化させずに、科学的に見直しを行い、できると

対して失礼かもしれない。でも、それでも『貴重な経験でした』と言いたい。」

実際に活動をしていない私に、このようなことを言う資格はない。しかし、いつか胸を張ってこう言えるように、この取材経験を今後の自分の業務や生活にも活かしていきたいと考えている。福祉の世界に飛び込んできて半年足らずの未熟者だが、必ず、現地で役立つ何かをしようと思う。

今回の取材は、JDFの皆さんが活動なさっている傍らにお邪魔させていただくという、大変失礼な形になってしまった。そんな中で快く対応していただいた北部支援センターの松村様、東部支援センターの菅井様、また、気持ちよく接してくださった23・24クルールの皆様に、心より感謝したい。

（取材 松本・小野記）

緊急時に備えておきたいもの

- ・携帯ラジオ（手で充電可能なもの）
- ・手で充電可能な携帯電話の充電器
- ・PHS（IP電話）
- ・発電機
- ・携行缶（燃料補給用）
- ・一週間分の食料（常時）

※ 東日本大震災を経験した宮城県の大規模な被災地にお答えいただきました。

ころから強化することが必要だ。

地域に根ざした事業運営を

第三に、地域を知ること。自分たちの住んでいる地域にどんな社会資源がありどのような事態が起こったときにどう活かせばいいのか。また、緊急時の避難誘導だけではなく、地域の避難所はどこにあるのか等を学び、即座に対応できるようにすること。さらに一歩進めて各事業所が災害時等の福祉避難所として在宅の障がいのある方を受けとめるような体制づくりを進めていくことが、地域福祉を進めていく上でも重要な役割を担っているのではと実感した。また、行政や関係団体との関係性を築きあげ、役割分担をすることで障がいのある方を含めた地域住民への連動した支援を行うことができるのではないかと考える。

そして、今回数多くの個人ボランティアをはじめ、障がい者を支援するJDFのような団体が被災地での活動を行っていたが、直接活動に参加するのにもよ、活動に参加できなくとも活動を支えるための資金を支援したり、こういった団体が持っている取り組みを数多くの方に広めることも福祉に携わる者として大切ではないだろうか。

「さいごに」

今後、私たちの住む地域にこのような災害が起こったときに、周囲からの支援は不可欠だと思うが、自分たちでできることは自分たちでやる、そのために、一人ひとりの防災・減災への意識、地域と行政が連携した取り組み、東日本大震災で学んだ「絆」の深さを、私たちが暮らしているその地域でその町で見直し、改めて築き上げていくことが大切なのだと思えた。

これから行われる避難訓練。まずは、今回の教訓を生かしたものにしていきたい。（菊地記）

こぶしおっ ぱんざい!!

たまみシュラン

「キッチン・セルフ」 に行ってきました

食べ歩き企画第1回目として、9月20日に、キッチンセルフに行ってきました。

お店の前には、こぶし作業所で作られた弁当やパンが並び、多くのお客さんを集めていて少し驚きました。

「いらっしゃいませ」という元気な声に迎えられて入った店内は、茶を基調とした落ち着いた雰囲気と、テーブルに飾られた生花のみずみずしさが心を和ませてくれました。今回の取材の意図を伝えると、秋メニューが始まったところだということで、さっそく新メニューをいただきました。



あっという間にパンも弁当も売り切れ状態に

キッチンセルフってどんなところ?

どんな人が働いているのですか?

5名の障がいのある仲間が、就労支援員兼調理員3名とともに土日問わずシフト制で働いています。

どんな方がおもに利用されていますか?

研修や会議で「とちぎ福祉プラザ」をおとすれた方が大半です。一日に30~45組、約60名の方にテイクアウトを含めご利用いただいております。

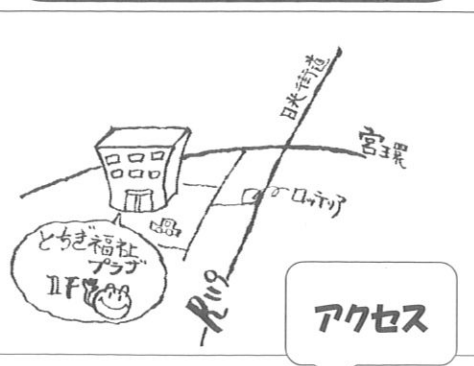
なにを売っているの?

お食事・ドリンク・デザートに加え、テイクアウトでこぶし作業所にこにこ弁当の手作り弁当、にこにこパン屋さんの手作りパン、おまんじゅうを売っています。テイクアウト商品も店内でお召し上がりいただけます。

どこにあるの?

とちぎ福祉プラザの1階にあります。

キッチンセルフ
宇都宮市若草 1-10-6
とちぎ福祉プラザ内
営業時間 9:30~17:30
9:00~17:00 (日曜日)
定休日 第1日曜日、平日の祝日、
プラザの休館日
☎&FAX 028-622-0966



好きな色で
塗ってね



節電の中、猛暑~台風~猛暑~台風と大変な夏を過ごされたと思います。皆様のお手元にこぶしだよりが届くころにはきっと過ごしやすい気候になり、おいしいものがより一層食べたくっているのではないのでしょうか。そんな皆様のために、今回から私(しのぎきたまみ:上三川ふれあいの家ひまわり)が、おいしいものを発掘し、ご紹介させていただきます。

こんなのたべてきました~

秋の新メニュー NO.1
きのこのパスタ
サラダ付き



十一月まで限定
八百円

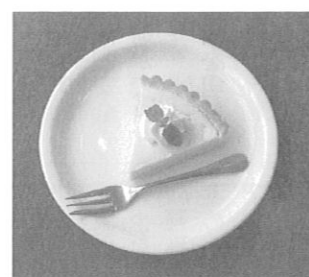
バター・生クリーム・ガーリック・醤油がきのこの絡み、こくとまろやかさがたまらない逸品。醤油ベースのきのこの焼うどんもおすすめです。

秋の新メニュー NO.2
秋鮭のきのこバターソテー
ライス&きのこスープ付き



下味のついた秋鮭をカリッカリに焼いて、バターでソテーしたきのこをトッピング。つけあわせのコーンと、きのこスープの甘みがうれしいセットメニュー。
11月まで限定 800円

おすすめ!!



おすすめの大人気商品がお菓子工房ピケの手作りスイーツ。ていねいに手作りされる「くらしっくショコラ」、「アップルタルト」、「チーズタルト」が、スペシャルティコーヒー(350円)や、ワイスティーオリジナル紅茶(3種類、いずれも450円)と相性ばっちり。 各種400円



感想の部屋



今回ご同行願ったのは、上三川ふれあいの家ひまわり・地域活動支援センター利用の、矢野真由美さんと、猪瀬敏夫さんです。

矢野: こんなにおいしい料理をたべたのは初めて。お昼を食べてきて、おなかがいっぱいだったが食べられてしまいました。今までに味わったことのない味に感動しました。

猪瀬: 食事、スイーツともにおいしくてびっくりした。おいしくて何と表現していいかわからない

みなさまありがとうございました



「けやきまつり」

～設立19年を迎え、感謝をこめて～

去る9月10日(土)、「上三川ふれあいの家ひまわり」の開所式並びに茶話会を開催しました。上三川町長をはじめとする町関係の方々、日産自動車をはじめとする関連企業・団体の方々、そして近隣の方々など多数の皆様方のご列席のもと、参加者は総勢130名余を超えて盛大に執り行われましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。

利用者のみなさんは、仕事の合間に練習をしたハンドベル、大勢のお客様を前にしての演奏で緊張した様子でしたが、会場の皆様の大きな拍手で大満足でした。式典の後の茶和会では、たくさんの方々に声をかけていただき、楽しいひとときを過ごすことができました。ありがとうございました。

4月から、新しく社会福祉法人こぶしの会の指定管理の下にスタートして4ヶ月、まだまだご要望にお応えできないところもあるかと思いますが、この「上三川ふれあいの家ひまわり」が、上三川町の障がい福祉サービスの拠点として、しっかり根付き、立派な大木になるよう、職員一同がんばっていく所存です。

今後とも、関係者の皆様方のご理解とご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、いろいろとお手伝いいただきましたご家族の方々ありがとうございました。

この度の未曾有の震災に遭われた皆様方に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を願っております。

当けやき作業所は設立20年を来年に控え、この震災で大変な時期かとは思いましたが、8月6日(土)に地域の方に感謝の気持ちを込めて長年お休みをしていた「けやきまつり」を実施いたしました。

「けやきまつり」は、けやき・第2けやき作業所の利用者と家族会・後援会、職員が力を合わせて取り組みました。宣伝協力・ボランティアの募集や環境づくりなどとたくさんの方々の協力を得ながらの実施となり、改めて地域に根ざした作業所のあり方を感じることができました。

来年は設立20年。今後は実行委員会を立ち上げ、今年よりも大きな規模で地域の方々への感謝の気持ちを込めたイベントを作り上げたいと思っております。興味・関心のある方は、ぜひ次の連絡先までご連絡いただければと思います。

連絡先：028-687-1040(担当：東岡・中村・先瀬)

「上三川ふれあいの家ひまわり」
開所式と茶話会

所長 生井 敏夫

店舗事業

●キッチン・セルフ

☎320-8508 宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ内
TEL 028(622)0966 FAX 028(622)0966
【定休日】第1日曜、平日の祝祭日、福祉プラザ閉館日

●バグカフェ

☎320-0821 宇都宮市一条2-7-1 双葉ハイム103
TEL 028(636)8583 FAX 028(636)8583
【定休日】土日祝祭日

●おらがそば茶屋

☎321-3324 芳賀郡芳賀町大字西水沼438-2
TEL 028(680)5091 FAX 028(680)5092
【定休日】日曜日 年末年始

日中活動支援

●こぶし作業所

☎321-0126 宇都宮市茂原町837-1
TEL 028(653)1020 FAX 028(688)1121

●けやき作業所

☎321-3304 芳賀郡芳賀町祖母井2244
TEL 028(687)1040 FAX 028(677)5789

●第2けやき作業所

☎321-0902 宇都宮市柳田町1401
TEL 028(677)0495 FAX 028(680)5938

●セルフ・みらい

☎321-4363 真岡市亀山1043-23
TEL 0285(81)1155 FAX 0285(81)1177

●県東ライフサポートセンター「真岡」

☎321-4305 真岡市荒町3-9-5
TEL 0285(83)2567 FAX 0285(85)8055

●上三川ふれあいの家ひまわり

☎329-0611 河内郡上三川町大字上三川5082-15
TEL 0285(38)6821 FAX 0285(38)6841



～わたしのおすすめの本～

こぶしづかん

取材者：牧岡



よっ!

メガネびゅーてーい♡



マンガで分かる 心療内科

原作 ゆうきゆう

漫画 ソウ

「なんだか難しそうで、壁があるわって人にぜひ読んでもらいたいですね。」

心理学への興味から福祉の道に進み、ゆとり教育のゆとりを感じる暇もなく、勉強と虫屋のバイトに明け暮れた学生時代を経て、精神保健福祉士と社会福祉士に現役合格した。

社会にもまれ、壁にぶつかり、それでも前を向いてがんばる姿が周囲の応援を呼ぶ。

見た目からは想像できないほどのおっさん生活と、ヘラクレスオオカブトの扱いがこぶしの会随一と評判のチャレンジセンターで働く障がいのある方の一般就労支援員。



渡辺さおり

この4月からキッチンセルフ(とちぎ福祉プラザ1F)で調理のできる支援員として働き始めたスーパーフレッシュ。できればおすすめの本などあれば…とお尋ねしたところ、教科書以外の活字は読んだ記憶が無い!との元気な返事をいただきました。

「和洋中の料理ができて、お菓子が作れたらカッコいい」と短大で調理を学び、調理員の応募でこぶしの会に入社。障がい者福祉も、社会人生活もともに一年生。見るもの、触れるものすべてが新しい!なんでもがんばり、学ぶ姿勢が心地よい。

バスケットとお昼寝が大好きな前向きで元気な21歳のこれからの成長に期待が高まる。

自分のことで何かするよりは、人のサポートをする方が自分に合っている!と進んだ福祉の道も早や8年。こぶしの会では6年目を迎え、ますます元氣なやせっぽち。

細い双肩に地域福祉の明日を背負い、頼れる専門家への階段を駆け上がる上三川障がい児・者生活相談支援センター相談支援専門員。



大久保愛

読み取って、考えて、そして癒されて

おすすめ絵本

ぐるんぱのようちえん
西内ミナミ 作
堀内誠一 絵

- ・バムとクロのおかいもの
- ・まぐらのせんにん
- ・〜そのあなただの巻
- ・こびとづかん
- ・いちにちおもちゃ

「みんなに読んでもらいたい」と、心から思う。



顔ちっちゃいなあ～



山田舞衣

こぶしづかん

こぶしの会に生息するゆかいな職員のおすすめの本を毎回紹介するよ。

感想を下記アドレスに送ろう!
skb@kobusi.or.jp 牧岡

居住生活支援事業部

☎321-0902 宇都宮市柳田町1401

TEL 028(666)0418 FAX 028(666)6128

宇都宮地区 こぶしのときわ荘、くるみ

芳賀地区 ホームひまわり、けやきハイツ、ホーム秋桜、コーポ峰

真岡地区 ぼてっと

相談支援事業

●障がい者生活支援センターこぶし

☎321-0902 宇都宮市柳田町1401

TEL 028(613)5703 FAX 028(688)1121

●芳賀地区障害児者相談支援センター

☎321-4363 真岡市荒町110-1市総合福祉保健センター内

TEL 0285(80)7765 FAX 0285(80)7765

●上三川障がい児・者生活相談支援センター

☎329-0611 河内郡上三川町大字上三川5082-15

TEL 0285(38)6854 FAX 0285(38)6841

●県東圏障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」

☎321-4305 真岡市荒町111-1

TEL 0285(85)8451 FAX 0285(85)8452

●地域活動支援センター「ほっとCHA」

☎321-3304 芳賀郡芳賀町祖母井2244

TEL 090(7820)9165

●上三川ふれあいの家ひまわり 地域活動支援センター

☎329-0611 河内郡上三川町大字上三川5082-15

TEL 0285(38)6821 FAX 0285(38)6841

法人本部

☎321-0902 宇都宮市柳田町1401

TEL 028(613)3707 FAX 028(666)6128



特集

マグニチュード 9.0



社会福祉法人

3月11日 第2けやき作業所 被災

ぶしの会

私たちは大震災で沢山のものを失った
しかし、そこから学んだことが私たちを強くする

NO.348

【企画】社会福祉法人こぶしの会
【編集】こぶしだより編集委員会

【責任者】藤田勝春
【編集責任者】高橋温美
【住所】〒三三〇九〇二 宇都宮市柳田町一四〇一番地

【発行所】〒二五七〇七三

東京都世田谷区砧六二六二二
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価五〇円

1. みらいの会にご加入いただけませんか

「セルフ・みらい」は真岡市民の方々をはじめとする多くの協力者の力で開所し、早や10年目を迎えます。

「みらいの会」は、そのつくるところから、そして現在も応援団として「セルフ・みらい」を支えてきました。チャリティーコンサート等とおしての市民と障がい者との交流の場をつくったり、資金的な支援をしてきました。また、障がい者の尊厳を踏みにじる法律といわれる障害者自立支援法の廃止を求める活動にも参加しました。市民のみなさんにとって福祉サービスが身近になり、障がいのある方の存在が当たり前になる社会をめざして活動に取り組んでいます。

「みらいの会」は、会員によって運営されています。ぜひ、皆様方にご加入を、また、会員になるのはちょっと、という方は、一度一緒に活動してみませんか。来年は、10周年記念事業も予定しています。ご連絡をお待ちしています（会費は、一口1,000円です）。

2. 下半期、後援会イベント参加の日程

- 10月 2日（日） 日産しらさぎ祭り
- 10月16日（日） 第27回ふれあいフェスティバル
- 10月22日（土） 西輝ヶ丘祭
- 10月30日（日） 井頭温泉まつり
- 11月 6日（日） 第17回みらいフェスタ

3. 連絡窓口

セルフ・みらい

真岡市亀山1043-23 Tel 0285-81-1155

担当者 小野 上田

◎セルフ・みらいでは、ボランティアの参加もお待ちしております!! みらいの仲間と一緒に仕事をしたり、お話ししたりしませんか? お気軽にセルフ・みらいまでご連絡ください!

～編集後記～

- …この編集後記を書いているのは、夏も終わりに近づき秋らしきが見え隠れするところです。これから厳しく長い冬の季節がやってきますが、寒さに負けず、仲間たちの様子をお伝えしていきたいと考えています。（小野）
- …被災地を目の当たりにして、三陸沿いに住んでいた親戚や友人がみな無事だったのが奇跡のようです。いま生きていてくれることに感謝。（菊地）
- …今回初めて取材に行き、記事を書きました。記事を読むのと、実際やってみるのでは……。次号もがんばります。（篠崎）
- …今回の震災特集、いかがでしたでしょうか? 東日本大震災について思ったこと、感じていることのある方、編集委員までお寄せいただくと嬉しいです。（松本）
- …ヒーハー言いながら楽しくこぶしだよりが作れました。編集ってきびしい…。そんなさなか、13年振りにバスケを始めました。全然動いてないので両ひざばきばきで、ジャンプなんか5センチが限界です。でも気持ち良い汗（脂）かいてます。ちーむこぶしできるかな?（牧岡）

セルフ・みらい後援会
「みらいの会」に入って一緒に活動しませんか



日頃からボランティアをされている岸後援会会長さんをお持ちした木工細工で、楽しく活動している1枚です。